

4) 専門科目群

専門科目群は、共通専門科目、学科基礎科目、文化論・比較文化系、文学・語学系、歴史・思想系、応用科目、修了科目、演習科目(表5)からなっている。

表5 専門科目群

科目ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象学年	履修形態 無修単	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
		必修	選択	春学期	秋学期								
共通専門科目													
FYE-100	日本文化概論	2		○	1				オムニバス		●		
FYE-100	基礎教育入門(書き方)	1		○	○	1	演習						●
FYE-100	文章表現法	2		○	○	1	必				●		
学科基礎科目													
JLN-100	日本語学概説	4		◎	1	1	必				●	●	
JLT-100	日本文学概説	4		◎	1	1	必				●	●	
JPH-100	日本史概説A	2	○		1	1					●		
JPH-100	日本史概説B	2		○	1	1					●		
JLE-100	日本語教育概論	4	◎		1	1			「日本語教員養成課程」必修		●		
JLT-100	古典読解A	2		○	1	1					●		
JLT-100	古典読解B	2	○		1	1					●		
JLT-100	近現代文学読解	2		○	1	1					●	●	
HSG-100	史料読解	2		○	1	1			10単位選択必修		●		
HIT-100	日本思想入門	2		○	1	1					●		
ARL-100	伝統芸能入門	2		○	1	1					●		
CUA-100	相関文化	2	○		1	1					●		
CUA-100	比較文化概論	4	◎		1	1					●	●	
HSG-100	文化交流史(アジアと日本)	4	◎		1	1			隔年開講		●	●	
SOC-100	文化の社会学	4	◎		1	1					●	●	●
JLE-200	日本語表現法(ディベート)	2	○		2	2	必		人数制限40名		●	●	
ARL-100	書道	2	◎	◎	1	1	実習 選		人数制限30名 中免必修		●		●
JLE-200	国際交流と多文化共生	2		○	2	2			人数制限30名		●		
文化論・比較文化系													
ARL-200	日本の演劇	4	◎		2	2					●	●	
ARL-200	日本の美術	4		◎	2	2					●	●	
ARL-200	日本の音楽	4	◎		2	2					●	●	
CUA-200	日本の民俗	4	◎		2	2					●	●	
ARL-200	日本のポップ・カルチャー	4	◎		2	2					●	●	
ARL-200	視覚・表象文化(映像文化)	4		◎	2	2			隔年開講		●	●	
ARL-200	視覚・表象文化(グローバル時代の映像)	4		◎	2	2			隔年開講		●	●	
CHS-200	こどもと文化	2		○	2	2					●		
CST-200	異文化間コミュニケーション	4		◎	2	2					●	●	●
LIG-200	比較文学	4		◎	2	2			隔年開講		●	●	
LIG-200	翻訳文化論	4		◎	2	2			隔年開講		●	●	
CUA-200	文化人類学	4	◎		2	2					●		
CUA-200	韓国文化演習	4		集中	1	1	演習		韓国啓明大学校夏期セミナー		●		●
CUA-300	日本文化特殊講義	4		◎	3	3					●	●	
CUA-300	比較文化特殊講義①	4	◎		3	3			隔年開講		●	●	●
CUA-300	比較文化特殊講義②	4		◎	3	3					●	●	●
CST-300	Intercultural Communication	4	◎		2	2			JSP科目		●	●	●

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	履修 制限	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
		必修	選択	春学期	秋学期								
文学・語学系													
JLT-100	日本文学史(上代・中古)		4		◎	1～					●	●	
JLT-100	日本文学史(中世・近世)		4	◎		1～					●	●	
JLT-100	日本文学史(近現代)		4		◎	1～		必			●	●	
JLT-100	文学理論		4	◎		1～					●	●	
JLT-200	日本文学研究と批評(古典①)		4	◎		2～					●	●	
JLT-200	日本文学研究と批評(古典②)		4		◎	2～					●	●	
JLT-200	日本文学研究と批評(近現代①)		4	◎		2～					●	●	
JLT-200	日本文学研究と批評(近現代②)		4		◎	2～					●	●	
LIG-200	児童文学		4	◎		2～					●	●	
LIN-100	言語学概論		4		◎	2～					●	●	
LIN-200	対照言語学		4		◎	2～					●	●	
LIN-200	言語文化論		4	◎		2～		隔年開講			●	●	
LIN-200	心理言語学		4	◎		2～					●	●	●
JLN-200	原典講読 I		2	◎		2～	演習				●	●	
JLN-200	原典講読 II		2		◎	2～	演習				●	●	
CHL-100	中国文学		4		◎	1～		選			●	●	●
JLT-100	漢文学概説		4	◎		1～		必			●	●	●
JLN-200	日本語学(文法)A		2	○		2～					●	●	●
JLN-200	日本語学(文法)B		2		○	2～					●	●	●
JLN-200	日本語学(音声・音韻)		2		○	2～					●	●	●
LIN-200	言語使用と社会		2		○	2～					●	●	●
JLE-100	日本語教授法講義		4		◎	1～					●	●	●
JLE-200	日本語教授法演習		2		◎	2～	演習	注1「日本語教員養成			●	●	
JLE-300	日本語教育実習		2	◎		3～	実習	注2「課程」必修			●	●	
JLE-200	日本語教材・教具論		2	○		2～					●	●	
LIN-200	言語とグローバル社会		4	◎		2～		隔年開講			●	●	●
JLT-300	日本文学特殊講義①		4		◎	3～					●	●	
JLT-300	日本文学特殊講義②		4	◎		3～					●	●	
JLN-300	日本語学特殊講義		4	◎		3～					●	●	
LIN-300	言語学特殊講義		4	◎		3～		隔年開講			●	●	
LIN-200	Language in Society		4		◎	2～		JSP科目、TOEFL380点または TOEIC380点以上 隔年開講			●	●	
LIN-200	Theory of Language & Culture		4	◎		2～		JSP科目			●	●	
JLT-200	Japanese Literature		4	◎		2～		JSP科目			●	●	
歴史・思想系													
JPH-200	日本史の研究(古代史特論)		2	○		2～					●		
JPH-200	日本史の研究(中世史特論)		2		○	2～					●		
JPH-200	日本史の研究(近世史特論)		2	○		2～					●		
JPH-200	日本史の研究(近代史特論)		2	○		2～					●		
JPH-200	日本史の研究(現代史特論)		2		○	2～					●		
JPH-200	歴史と文化		4	◎		2～					●	●	
JPH-200	歴史と社会		4		◎	2～					●	●	
HIT-200	日本の思想(儒教)		2		○	2～					●		
HIT-200	日本の思想(仏教)		2	○		2～					●		
HIT-200	日本の思想(キリスト教)		2	○		2～					●		
RES-200	比較宗教学		4		◎	2～					●	●	●
HIT-200	中国思想		4	◎		2～					●	●	●
JPH-300	日本史特殊講義		4	◎		3～					●	●	
HIT-300	日本思想特殊講義		4		◎	3～					●	●	
JPH-200	Japanese History		4	◎		2～		JSP科目			●	●	●

注1「日本語教授法講義」を修得済みであること

注2「日本語教育概論」・「日本語教授法講義」・「日本語教授法演習」を修得済みであること

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位	開講期		対象	履修形 態 制限	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
		必修 選択	春季期	秋季期	学年							
応用科目												
ESS-100	教えるための現代文A	2	○		2～		選必	隔年開講、注3		●	●	
ESS-100	教えるための現代文B	2	○		2～		選必	隔年開講、注3		●	●	
ESS-100	教えるための古典Ⅰ	2	○		2～		必			●	●	
ESS-100	教えるための古典Ⅱ	2		○	2～		必	注4		●	●	
ESS-100	教えるための古典Ⅲ	2	○		3～		選	中免必修		●	●	
ESS-100	教えるための古典Ⅳ	2		○	3～		選	中免必修		●	●	
SOC-100	社会調査入門	2	○		1～					●		●
SOC-100	社会調査の方法	4		◎	1～					●		●
SOC-100	社会統計学の基礎	2	○		2～					●	●	●
SOC-200	量的データ解析の方法	2		○	2～					●	●	●
SOC-200	社会調査実践Ⅰ	2	○		2～			「社会調査の方法」を修得済であること		●	●	●
SOC-200	社会調査実践Ⅱ	2		○	2～					●	●	●
EDU-200	キリスト教と学校教育	2			○	2～	選	オムニバス				●
EDU-200	介護等体験及び事前事後指導	2	集中		3	実習	選	中免必修			●	
EDU-200	生涯学習概論	2	○		2～					●	●	●
LIH-200	図書館情報学概論	2	○	○	2～					●	●	●
LIH-200	図書館サービス概論	2	○		2～					●	●	●
LIH-200	情報メディア史	2	○		2～					●	●	●
IND-300	インディペンデント・スタディA	4			1～						●	●
IND-300	インディペンデント・スタディB	2			1～						●	●
IND-200	インディペンデント・スタディC	1			1～						●	●
IND-200	インディペンデント・スタディD	1			1～						●	●

注3 2年生以上で、国語科教育法Ⅰを修得済みか、並行履修のこと

注4 履修要件(P.103)参照

122J

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義 演習	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
		必修	選択	春学期	秋学期								
修了科目													
SEM-400	卒業レポートA		1	○		4			注5		●	●	●
SEM-400	卒業レポートB		1		○	4				●	●	●	●
THE-400	卒業論文		6			4				●	●	●	●
演習科目													
SEM-200	専門演習 I		1		○	2～	演習		同一担当者Ⅰ・Ⅱを 付したクラス必修		●	●	●
SEM-200	専門演習Ⅱ		1		○	2～	演習			●	●	●	●
SEM-300	卒業研究Ⅰ		1		○	3～	演習		同一担当者Ⅰ・Ⅱを 付したクラス必修	●		●	●
SEM-300	卒業研究Ⅱ		1		○	3～	演習			●		●	●
ESS-300	教職演習A			1		○	2～	演習	隔年開講			●	●
ESS-300	教職演習B			1		○	2～	演習	隔年開講			●	●

注5 1科目1単位選択必修。卒業論文提出の場合は、2科目2単位必修。

1. 教職課程について

1年次終了時の修得単位数が30単位数に満たない者は履修できない。「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」については次のように履修する。

- ① 「教えるための古典Ⅰ」は「国語科教育法Ⅰ」と同時に履修すること。
- ② 両科目とも修得できた者のみが、「国語科教育法Ⅱ」を履修することができる。
- ③ ただし、「国語科教育法Ⅱ」は「教えるための古典Ⅱ」と同時に履修し、修得しなければならない。
- ④ 「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ」を修得できた者のみが、「国語科教育法Ⅲ」を履修することができる。
- ⑤ 「国語科教育法Ⅲ・Ⅳ」および「教えるための古典Ⅲ・Ⅳ」の履修も「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ」と同様とする。

2. 演習科目について

演習科目は、専門演習と卒業研究からなる。専門演習と卒業研究は共に選択必修科目である。

- ① 「専門演習Ⅰ」の履修は2年次春学期であるが、1年次秋学期の事前登録によって履修クラスが決定する。
- ② 「卒業研究Ⅰ」の履修は3年次春学期であるが、2年次秋学期の事前登録によって履修クラスが決定する。
- ③ 「専門演習Ⅰ」および「卒業研究Ⅰ」の事前登録日時や選考方法等については、掲示ならびにガイダンスで周知するので、必ず事前登録をおこなうこと。
- ④ 「専門演習Ⅱ」の履修クラスは原則として「専門演習Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」の履修クラスは原則として「卒業研究Ⅰ」と同じである。
- ⑤ 「卒業研究」を履修する者は、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。
- ⑥ 春学期に演習科目Ⅰの単位を修得できなかった場合、秋学期は単位なしで演習科目Ⅱを聴講することが望ましい。

秋学期に演習科目Ⅱの単位を修得できなかった場合、翌年度春学期は単位なしで演習科目Ⅰを聴講することが望ましい。

3. 修了科目について

4年間の学びを総括するために、4年次に設定してある修了科目の「卒業論文」を履修することが望ましい。また、「卒業レポート」1単位以上を選択必修とする。なお、「卒業レポート」を履修するには、少なくとも「卒業研究Ⅰ」の単位を修得済みでなければならない。

4. 卒業論文について

「卒業論文」は、卒業研究の単位を修得した者が、指導教員の継続的指導を受けたと認められ、規定枚数(400字詰原稿用紙換算50枚以上)に達した、一定水準以上の論文を提出した場合6単位与えられる制度である。

- ① 卒業論文の執筆を希望する学生は、卒業研究の単位を修得後、指定期間に所定の方法にて教育支援課に願い出ること。「卒業論文」の登録は、卒業見込学期の指定期間に行うこと。指定期間に「卒業論文」の登録をしないと単位は認定されないので注意すること。
- ② 「卒業論文」は、所定の期間(卒業見込学期の13週目)に教育支援課に提出しなければならない。(ただし、提出締切日が休日の場合はその翌日、土曜日の場合は翌週月曜日までとする。)
- ③ 「卒業論文」は主査の教員が、口述試験を経て審査を行い、評価を決めるものとする。
- ④ 「卒業レポートA・B」を通して履修することを提出条件とする。

5. インディペンデント・スタディについて

文化への関心・理解を深める、あるいは体験・表現を実践するための有益なプログラムに参加・参画した場合、「インディペンデント・スタディ」として、4単位、2単位、1単位いずれかの単位修得が可能である。単位修得を希望する者は、「Independent study 単位認定に関する内規」に従い、事前に学科長に申請書を提出し、学科会の許可を経て事前指導を受ける。事後、そのプログラム内容により単位が認定される。

6. 卒業見込証明書の交付について

卒業見込証明書の発行を請求するには、3年次修了時点において在学期間（注1）が6セメスター以上（2年次編入生は4セメスター以上、3年次編入生は2セメスター以上）で、総修得単位数76単位以上でなければならない。

（注1）休学期間は在学期間に含まない。